

木崎中だより	3号	令和2年5月27日(水) さいたま市立木崎中学校 048(886)4302
--------	----	---

新しい生活様式

校長 大谷 慎也

「紫陽花や 昨日の誠 今日の嘘」(正岡子規 『ホトトギス』) 赤や青、紫の紫陽花を目にする頃となりました。紫陽花の花言葉は様々にありますが、その一つに花期の長いことから「辛抱強さ」があります。6月1日(月)をもって、待ちに待った学校再開となります。これまで、新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく緊急事態措置により臨時休業が続く中、不自由な生活を強いられながらも、辛抱強く凡事徹底に努めている生徒や職員は称賛に値します。そして、ご家族を守り、さいたま市ならびに本校の取組に多大なご協力を賜っております保護者の皆様、地域の皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

過日、「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～『学校の新しい生活様式』～」(5月22日付文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課)が作成され、「地域ごとの行動基準」「設置者及び学校の役割」「家庭との連携」等、学校における本感染症対策の考え方や多岐に渡る対策例が示されました。これに先立ち、専門家会議による「新型コロナウイルス感染症対策の状況分析・提言」を受けて、5月4日に厚生労働省から公表された『『新しい生活様式』の実践例』では、感染症とともに生きていく社会づくりのために「一人ひとりの基本的感染対策」「日常生活を営む上での基本的な生活様式」「日常生活の各場面別の生活様式」「働き方の新しいスタイル」の4つを柱とし、具体的事項が挙げられました。これらの具体的事項を基にしてマニュアルは作成されています。そして、学校生活を送る上で、保護者、市当局、PTA、地域の関係団体等と連携して学校の保健管理体制を築き、3密の回避と対応、施設や活動場面ごとの新たなルールづくりと指導が求められています。また、毎日の検温と健康観察、携行品や所有物の消毒、外出や他者との交流の自粛等、家庭での指導や実践も求められています。

現在、新型コロナウイルス感染症に関して不明な点が多く、有効性が十分に確認されたワクチンが開発された訳ではありません。学校の教育活動を進めるにあたっては、まず、生徒と教職員の感染リスクを可能な限り低減することが最も重要です。行動基準に従い、慎重にして、かつ、段階的に進めていくこととなります。授業をはじめとする再開時の活動は、大きな声を出しての話す活動や読む活動が制限されますので、受動的な活動になりがちと考えられます。しかし、書く活動や見(視・観)る活動、聞(聴)く活動は、十分できます。小さいながらも工夫をし、新たな指導方法を駆使して、生徒の考えや感じていることを引き出しながら、活動をコーディネートしてまいります。次に、心の健康が重要です。すべての生徒が大きな不安とストレスを抱えています。マスク着用では、互いに表情がわかりづらく、単に「辛抱」「負けるな」の声掛けでは、心が閉ざされてしまいます。全職員が小さな声に耳を傾け、書かれた文字を見落とさず少しずつ解消できるように心で寄り添います。そして、全生徒が、来春には「今年の木崎中生で良かった。」と言えるような自己存在感をもち、共感的な人間関係を築き合い、自己実現を図るように師弟同行で取り組んでまいります。

紫陽花には、少しずつ色が変化していくことから「移り気」という花言葉もあります。新型コロナウイルス感染症の拡大が収束に向かうことを切に願うばかりですが、再びリスクが高まり、緊急事態となることも想定されます。保護者・ご家族の皆様、地域の皆様のご健康を改めてお祈りするとともに、今後の教育活動へのご理解とご協力をお願い申し上げます。